

ふれあい通信

実家のないふる里

小生には、実家と呼べる所がありません。小野町で暮らしたのは、小学校3年から高校卒業までの約11年間だけでした。それでも、父の職業上、転勤ばかりのわが家が一番長く住んだ所が小野町でした。

今、小生は同窓会があれば小野町に帰ってきます。

しかし実家がありませんので、会が終わればすぐに現在の住まいがある藤沢に帰るだけです。

そんな小生が、幼い頃の思い出として時々思い出す情景があります。それは冬の小野町です。

昭和26年から38年頃は、雪は積もる程ではなかったのですが、風が吹くと吹き溜まりができ、大変寒かったと記憶しています。

父は変電所勤務で、社宅の通りを挟んで、向かい側に田んぼがあり、長靴にスケートをゴムバンドで固定してよく滑りました。正月休みになると、都会に就職した近所の兄さんたちが帰郷し、スケート靴で滑る姿をうらやましく眺めたものです。

また当時はアルミサッシなど無く、夜寝る時は窓から隙間風が入ってきました。幼い小生はドテラを頭までかけ、足元には電球が



カ丸 誠吉

りきまる・せいきち

- 中通出身
- 神奈川支部

入った父の手作りアンカを置いて眠りました。

父が夜勤の時は、母の手作り弁当を届けるため、雪道を5歳下の妹と高台にある変電所まで向かったものです。途中の坂で滑ってなかなか行き着けず、心配した父が外に出てきてくれました。その後、暖かい変電所の中でしばらく休んで帰りました。

どれも今ではとても考えられないのんびりとした情景が思い出されます。

実家は無くても、小生にとって小野町は時々訪ねる「ふる里」だと思っています。



昭和28年頃の小野新町変電所

広告募集中

◆1号広告(タテ4.5cm×ヨコ17.8cm)
掲載料：1回10,000円、連続6回50,000円)

◆2号広告(タテ4.5cm×ヨコ8.8cm)
掲載料：1回5,000円、連続6回25,000円)

※いずれも一色刷り

◆申し込み方法

町公式ウェブサイトで「広告掲載申込書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、必要書類を添付して総務課までお申し込みください。

詳しくは
総務課まで!!
☎72-2111